

令和 6 年度 津島市決算審査意見書

一般会計・特別会計
基金運用状況
公営企業会計

津島市監査委員

令和 6 年度津島市一般会計・特別会計
歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見

第 1 審査の対象

令和 6 年度津島市一般会計歳入歳出決算
令和 6 年度津島市国民健康保険特別会計歳入歳出決算
令和 6 年度津島市コミュニティ・プラント事業特別会計歳入歳出決算
令和 6 年度津島市介護保険特別会計歳入歳出決算
令和 6 年度津島市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
令和 6 年度津島市基金運用状況

第 2 審査の期間

令和 7 年 6 月 4 日から令和 7 年 7 月 31 日まで

第 3 審査の方法

審査にあたっては、津島市監査基準に準拠し、令和 6 年度津島市一般会計・特別会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び基金の運用状況調書の計数が正確であるか否かを検証すること、及び予算の執行について、「事務事業が最も効果的、経済的、合法的に執行されているか」、また、その本来の目的である「住民の福祉を増進するよう運営されているか」に主眼をおき、関係諸帳簿証書類と照合し、併せて関係職員の説明を求めて審査した。

第 4 審査の結果

審査に付された各会計の歳入歳出決算書等はいずれも関係法令に準拠して調製されており、その計数は関係諸帳簿証書類と符合し、その内容も正確であった。

また、その事務事業は関係法令並びに議会の議決の趣旨に沿い、概ね適正に執行されていた。

次に、基金の運用状況調書についても、その計数は正確であり、基金の設置目的に沿って適正に運用、管理されていた。

なお、審査結果の概要は次のとおりである。

令和6年度津島市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和6年度津島市民病院事業会計決算

令和6年度津島市上水道事業会計決算

令和6年度津島市下水道事業会計決算

第2 審査の期間

令和7年6月6日から令和7年7月29日まで

第3 審査の方法

- 1 決算審査にあたっては、津島市監査基準に準拠し、決算書及び決算附属書類と総勘定元帳、関係補助簿、その他関連保管文書等と照合し、併せて関係職員の説明を求めて審査した。
- 2 令和6年度の経営内容を把握するため、前年度との比較により事業の推移を明らかにした。
- 3 経営の基本原則である「常に経済性を発揮し、その本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営されているか」に主眼をおき、審査した。

第4 審査の結果

審査に付された決算書及び決算附属書類は、関係法令に準拠して調製されており、その計数は正確であり、各会計の経営成績及び財政状態を適正に表示されているものと認められた。

なお、各会計の業務実績、予算執行状況、経営状況及び財政状況等については、次に述べるとおりである。

6 経営分析

(1) 自己資本構成比率

総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、その比率が大きいほど経営の長期安定性が高いとされている。本年度は△26.5%で、前年度（△20.2%）と比較して6.3ポイント低下している。

(2) 固定長期適合率

固定資産の調達（投資）の適合性を示す固定長期適合率は、少なくとも100%以下であることが望ましく、100%を超えた場合は固定資産に対して過大投資が行われたとされている。本年度は106.7%で、前年度（95.7%）と比較して11.0ポイント上昇している。

(3) 流動比率

1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較したもので、流動性を確保するための理想比率は200%以上とされている。本年度は81.2%で、前年度（114.2%）と比較して33.0ポイント低下している。

む す び

以上が市民病院事業会計の決算審査の概要である。

令和6年度の業務状況については、入院患者数9万5,956人で前年度に比べ9,382人（10.8%）増加し、外来患者数は13万2,122人と前年度に比べ1,828人（1.4%）減少している。また、稼働病床利用率は前年度に比べ7.5ポイント上昇し、74.7%となっている。

経営状況については、総収益は88億8,625万8,656円で、国県からの補助金の減少があったものの、入院収益の増加により、前年度に比べ5億3,918万6,680円（6.5%）増加している。また、総費用は94億8,921万8,125円で、給与費の増加等により、前年度に比べ3億7,676万5,692円（4.1%）増加している。収支差引は6億295万9,469円の純損失となり、当年度未処理欠損金は令和5年度末の81億6,856万3,906円から、令和6年度末は87億7,152万3,375円となっている。

また、流動資産は前年度に比べ6億5,141万9,442円減少し16億5,304万6,087円となり、流動負債は1,794万7,574円増加し20億3,621万6,789円となっている。

医業収益分の未収金については、現年度分は12億8,851万9,769円で前年度に比べ1億6,111万297円（14.3%）増加し、過年度分は1,198万1,275円で前年度に比べ100万271円（7.7%）減少している。これらの未収金のうち患者自己負担分に係るものについては、負担の公平性及び財源確保の観点からも引き続き早期の回収に取り組まれるよう努められたい。

令和6年度は、救急車の受け入れ件数及び紹介患者の増加を図ったことや新たな専門外来「せばね外来」を令和6年4月に開設したことなどにより、前年度と比較し特に7月以降、稼働病床利用率向上による収益面での改善が見受けられた。しかし、給与費、材料費等費用も増加しているため、前年度より収支は改善しているものの6億295万9,469円の赤字となった。

令和5年3月に策定された津島市民病院経営強化プランの進捗管理においては、収支計画における特に収益面において、現状と乖離が生じており、今後の患者数の見通しも、依然として不透明な状況が続くと見込まれることから、経営状況は厳しい状態が続くものと予測される。

このため、経営環境の変化や経営状況を的確に把握し、より一層、収支バランスを意識した病院経営の安定化を病院職員全員が当事者意識を持ち、病院全体で取り組まれることを望むものである。